

## 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班（6月分）

標 題	地元農高生の水稻栽培への理解を深める		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和4年6月15日、28日	場所	宇和高校農場	
指導対象	宇和高校生徒（11人）	連携機関	西予市水稻防除協議会	
普及指導内容	<p>○宇和高校に設置している水稻肥料試験ほ場にて、生徒らに向けて生育調査方法の研修会を開催。</p> <p>○将来、地元の高校生が地域農業の担い手として活躍してもらえるよう、普及指導員が直接、実践的な技術などを指導しているもので、売れる米づくりと担い手の確保・育成を目的に実施している。</p> <p>○水稻の生育調査を指導した後、生徒には、草丈、茎数、葉色の3項目の調査を実際に体験してもらい、施肥方法の違う水稻の生育状況を数値で客観的に把握させることで、水稻栽培への理解を深めた。</p>			
結果と今後	<p>○次回は、7月中旬に生育調査及び穂肥診断方法を指導予定。</p> <p>○当班ではこうした活動を通じて、地域の主要品目である「宇和米」に対する理解を深めるだけでなく、地域農業の現状や農業の魅力を生徒に伝え、将来、地域を担う人材の育成に努める。</p>			
				<p>左：研修を受ける高校生 右：草丈と茎数を調査</p>

標 題	スマートな水管理！自動給水装置を設置		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和4年6月27日	場所	西予市宇和町石城地区	
指導対象	水稻生産農家（2人）	連携機関	農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○農林水産研究所と連携したスマート農業の実証試験の一環として、西予市宇和町で自動給水装置実証ほを2か所設置した。</p> <p>○農家にはスマートフォンの専用アプリから、現在の水位の確認や給水装置の開閉方法を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○実証ほの水口は、板で水位を調整するものであったが、板に穴を開けパイプを通すことで、問題なく装置を設置できたことから、多様な水口に対応できると考えられた。</p> <p>○今後は2種類の自動給水装置を比較しながら、水管理に要する時間がどの程度短縮できるか調査し、普及の可能性を検討していく。</p>			
<p>【自動給水装置】 水田の水口に設置し、設定した水位に合わせて自動で水口を開閉するもの。</p>				
		自動給水装置	受信機の取扱いを説明	

標 題	にんにく掘り取り機導入に向けた実演		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和4年6月24日	場所	西予市野村町大野ヶ原	
指導対象	大野ヶ原にんにく組合員（7人）	連携機関	（株）中四国クボタ、 西予市	
普及指導内容	<p>○大野ヶ原地域における寒地系にんにくの産地化を目指し、課題である労働負担の軽減に向け機械化を図ることとし、収穫用掘り取り機の実演を行い、適応性、作業性（人員・時間）、能力等を検証した。</p> <p>○また、生産者から植え付け作業も省力化を図りたいとの声を受け、植え付けと多くの作業時間を要する種子割り作業について、機械の導入を提案した。</p>			
結果と今後	<p>○実演の結果、掘り取り機の精度が高いこと、作業人員・時間の削減が見込まれることを確認し、今後、導入方法等について検討する。</p> <p>○種子割り機については、8月に機械の実演による研修会を開催し、労働力削減効果を検証する。</p> <p>○これらの機械の実演結果を踏まえ、産地化に向けた年度別計画の作成について指導するとともに、導入の際の補助事業や制度資金の活用について支援する。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-right: 20px;"> <p><b>【寒地系にんにく】</b>  <b>品種：ホワイト6片（青森県が主産地、国内にんにく産の約70%）</b>  <b>特性：1粒が大きく、独特の甘み、辛み、香りの3拍子揃った国産にんにく最高峰の品種</b></p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>にんにく掘り取り機の実演</p>  </div> </div>				

標 題	大野ヶ原にんにく収穫体験交流会の開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和4年6月13日	場所	大野ヶ原小学校及び生産者ほ場	
指導対象	野村高校生徒（13人）、大野ヶ原にんにく組合員3人	連携機関	（株）祐 西予市	
普及指導内容	<p>○大野ヶ原にんにくの産地化推進の一環として、地元高校生の理解を深めるため、生産者とともに収穫調製作業の体験交流会を開催した。</p> <p>○本交流会は、「えひめ未来チャレンジ支援事業」を活用し、将来の担い手や情報発信者として期待される生徒に、にんにく栽培の体験機会を設けるとともに、加工品開発・販路開拓により商品のPR活動を行っていくため実施。</p>			
結果と今後	<p>○生徒の多くが「にんにく栽培についてほとんど知らない」と答えていたが、交流会後のアンケート調査では、全体の約80%を超える生徒から「理解を深める良い機会になった」との回答があった。</p> <p>○また、意見交換では、にんにくを用いた新しい加工品案が数多く提案され、10月に開催予定の第2回交流会では、にんにくの植え付け体験のほか、新たな加工品開発について検討を行う計画である。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>大野ヶ原産にんにく</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>生徒による収穫調製作業体験</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>				

標 題	ぶどうの摘粒指導と併せてアシストスーツを紹介		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和4年6月7日	場所	西予市宇和町新城地区及び皆田地区	
指導対象	東宇和ぶどう生産部会員（8人） 及び皆田営農部会員（8人）	連携 機関	JA ひがしうわ	
普及指導 内容	<p>○ぶどうの高品質果実生産を円滑にするため摘粒講習会を実施し、目標とする房形や残す果粒数などのポイントとなる摘粒方法の実技指導を行った。</p> <p>○また、作業の軽労働力化を図るために、ぶどう用アシストスーツの紹介を行い、生産者がスーツの装着体験を行った。</p>			
結果と今後	<p>○今後の果実肥大促進と収穫期の裂果防止につながる摘粒の重要性について、生産者に再確認させることができた。</p> <p>○アシストスーツ体験生産者からは、「装着しやすく、肩が楽になる」など効果を実感する意見があった一方、「動きづらい」「少し重いため長時間の装着では疲れるのでは」などの問題点が指摘された。</p> <p>○当班ではアシストスーツ普及のため、生産者へ1週間程度貸出し、長時間使用時の感想の聞き取りを行うなど、実用性への検討を行っていく。</p>			
<p>【ぶどう用アシストスーツ】 摘粒など肩より上に腕を上げて行う作業の際に、腕や肩の負担を軽減するアシストスーツ。</p>				<p>摘粒の方法を指導      アシストスーツを装着して作業を実施</p>